

かわら版

巻頭言

社会福祉士と社会福祉士会への期待

北星学園大学 米本 秀仁

社会福祉士制度が1987年に創設されてから24年が経過した。社会福祉における国家資格制度として、名称独占ではあるとしても一定の社会的認知と活動の広がりが見えてきた。今回の東日本大震災においても、組織として対応する取り組みがみられた。専門職が職能団体を結成して成員の水準の担保を図ろうとするのは必須であるが、日本社会福祉士会及び北海道社会福祉士会は、その組織率には課題があるとしても組織としての存在感には一定のものがあると判断している。

私自身が社会福祉士資格を有しないにも拘らず、北海道社会福祉士会の外部理事として依頼されて数年の任期を遂行し、前年度を持って退任したが、理事会開催が土曜日ということが多かったことから、私の別件と重なることが多くて参加がままならず、殆ど名ばかり理事であったことを申し訳なく思っている。北海道社会福祉士会とは、むしろ実習委員会との縁が深く、新養成課程以前からの社会福祉士養成実習に関わって、実習指導者の研修・講習に協力することが多かった。北海道の社会福祉士実習の水準の高さは全国でも折り紙つきであるが、この水準の維持・向上には現場の社会福祉士及び北海道社会福祉士会の努力が預かっていることは当然である。

社会福祉士が実践の対象としている社会問題・生活問題が、ここ数年で消滅することが分かっているならば、敢えて後継者を養成する必要はない。しかし、その問題群はおそらくほぼ普遍的に生成するであろう。

その問題群に社会福祉士こそが有効に対処しうるのであるということを主張し証明しようとするならば、社会福祉士は現在の実践の水準の維持・向上を図り、そして現在の社会福祉士を超える水準を持つ後継者を養成することが問題群に対する倫理的責務として課せられる。(と別のところで述べた。)

この倫理的責務を果たそうとするならば、社会福祉士は自らの実践を批判的に捉えて遂行するだけでなく、その実践及び対象に対する研究的視角を持ち、且つ後継者への教育的関心を有して在らなければならないことになる。この実践・研究・教育の三位一体的遂行は、個人的であると同時に集団的であり、更には他組織と協働的である。北海道社会福祉士会には、会員の研修体制ばかりでなく、研究体制、実習研修体制等が揃っており、この三位一体的倫理的責務を果たす組織体制はかなりのものと考えている。あとは他組織(職能団体・教育機関等)との協働体制が課題となるであろう。

他方で、労働者としての社会福祉士の側面がある。厳しい経済事情の中で、職業としての社会福祉士が成り立ち難いという動向も言われるが、この点については、先の問題群が普遍的に存在し、それへの対応が社会的責務として制度的に必要であることが疑われない限り、職業としての存立は脅かされない。正に、社会福祉士の実践こそがその問題群に対して有効であるとの証明と関連するのである。

北海道における社会福祉士の存在意義を訴えることができるのは北海道社会福祉士会の活動にかかっている。上記の使命に応えることができる組織として、今後の発展を祈念する次第である。

最新情報

認定社会福祉士制度について

認定制度の名称について

これまで専門社会福祉士認定制度準備委員会では、国会での付帯決議に基づき、制度については「専門社会

福祉士」の名称を、認定された社会福祉士の名称については、「認定社会福祉士」及び「認定専門社会福祉士」のとして検討を行ってきました。

このたび、「認定専門社会福祉士」の名称について、「認定上級社会福祉士」とすることと決まりました。

なお、「認定専門社会福祉士」の名称を「認定上級社会福祉士」に変更したことに伴い、認定制度名についても「認定制度社会福祉士制度」となりました。

また、認定社会福祉士並びに認定上級社会福祉士の認定及び研修の認証を行う機関の名称は、「社会福祉士認定・研修認証センター」となりました。

第三者機関「社会福祉士認定・研修認証センター」の立ち上げについて

認定社会福祉士並びに認定上級社会福祉士の認定及び研修の認証は、第三者機関を設置し行うこととしています。

2012年度から認定社会福祉士の認定を開始するた

めには、今年度中に研修認証を開始する必要があります。このため早急に「社会福祉士認定・研修認証センター」を立ち上げるため、7月23日には、立ち上げのための準備会を開催するとこととしています。準備会のメンバーは、「社会福祉士認定・研修認証センター」の立ち上げ時のメンバーとなります。また、日本社会福祉士会が「社会福祉士認定・研修認証センター」の事務局を担うこととしています。なお、「認定社会福祉士制度」については、日本社会福祉士会のホームページで説明するとともに、準備委員会ホームページを作成し、情報を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。(URL <http://www.jacsw.or.jp/nintei/>)

委員会活動からお知らせ

☆☆生涯研修委員会☆☆

新生涯研修制度と共通研修の2部会体制で活動

今年度生涯研修委員会は、2つの部会を設けて活動をはじめました。1つは、来年度本格導入される新生涯研修制度の動向を把握しながら地区支部に発信し、地区支部内の要望や課題を把握し実施体制を整えていく「新生涯研修制度検討部会」。もう1つは従来生涯研修委員会が担ってきた共通研修(社会福祉セミナーと共通基盤研修)を企画運営する「基礎共通研修企画運営部会」です。「基礎共通研修企画運営部会」は、今年度は現在の共通基盤研修の最終年度となるため、昨年度まで活動してきた委員を中心に構成。「新生涯研修制度検討部会」は、来年度以降、新基礎研修を地区支部ごとに開催することを想定していることもあり、全地区支部より代表を選出いただき構成。地区支部の実情を踏まえながら、現実的な実施体制を検討していきます。

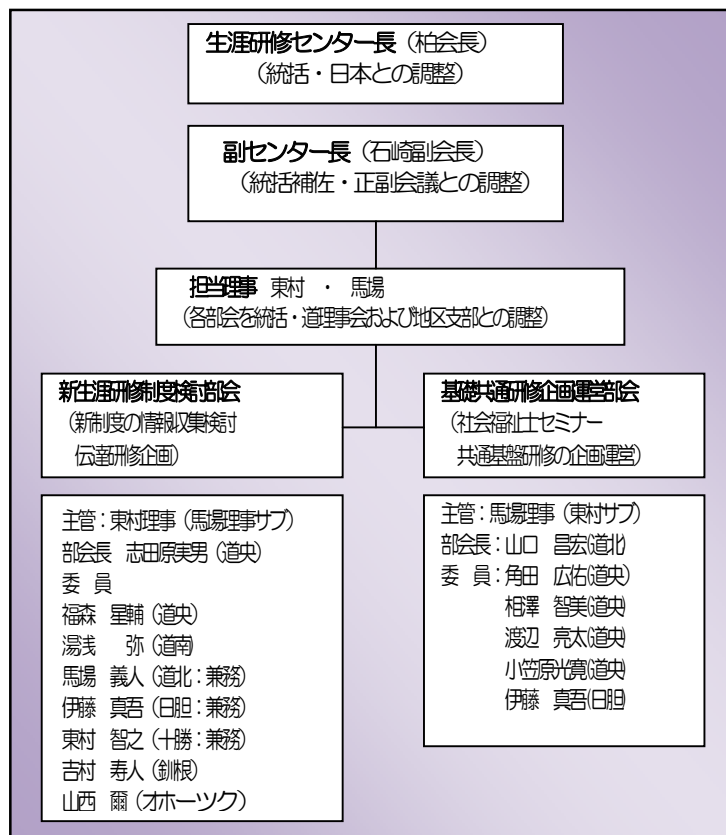
～委員を募集します！！～

☆☆受験対策委員会☆☆

2011年度社会福祉士受験対策講座及び模擬試験の開催にあたり、後進の育成に熱意をもってお手伝い頂ける方を次のとおり、2名程度公募いたします。希望される方は、事務局までお問合せ願います。

- ① 9月18日(日)・19日(月・祝)に開催される受験対策講座の運営をお手伝い頂ける方
- ② 11月3日(木・祝)に開催される模擬試験の運営をお手伝い頂ける方

□平成23年度生涯研修委員会体制□



③ Eメールができる環境にある方(自宅・職場いずれでも可)

以上の全ての条件を満たす方は、是非ともご応募ください。

応募多数の場合は、限られた予算の範囲内での実施運営になりますので、選考において、居住地を考慮させて頂きますことを予めご了承ください。

なお、当該講座及び模擬試験の詳細については、同封のチラシをご参照ください。

震災復興ボランティア報告

東松島市への活動をおえて

岩見沢市地域包括支援センター 高橋 通江

4月14日～4月18日の間、「社会福祉士として何ができるのだろうか」そのような思いを持ちながら、東松島市へと向かった私は、先に石崎さん（札幌市厚別区第2地域包括支援センター長）や、山階さん（厚別区介護予防センター西東）が活動に入っており、安心して向かうことになりました。ついてすぐに、現地のセンター長を含め、打ち合わせを行い、センター長として何を望んでいるのか、どのような支援を期待しているのかを本音で話していただき、その後の活動の業務に活かされました。ちょうど震災から1ヶ月経った今、再度、在宅へ戻ってきている方々のアセスメント等を目的に、マップ作りや調査票の作成を行いました。独立行政法人国立国際研究センターのメンバー（医師、看護師、薬剤師、事務）が常駐しており、急遽一緒に訪問することになり、再度、調査票やマップ作りの変更を行い、時間との戦いでした。また避難所での相談では、「世話をしてくれていた弟が亡くなり、私は若い人に助けられて避難所に来た。これからどうすればよいのか…。生きていてよいのか…。」病気をかかえ、一人になってしまった80代の女性が私たちに言った言葉です。たくさんのことを考えさせられました。

災害時には、様々な職種や関係機関からの要請があり、他職種、他機関との連携が重要です。自らも被災されている現地の職員が、通常業務だけでなくそれらの対応によっても、緊急かつ適切な判断をしなければならず、笑顔の中にも疲れている表情が見え、現地職員がほっとできる場をつくることも私たちの役目かとも思いました。

私たちがすべきことは、現地のセンターを支援することであり、積極的な介入支援ではありません。最終的判断は現地の職員です。その中で、社会福祉士の役割をどのように発揮するのか、介入したい気持ちとの葛藤もありました。しかし、あくまでも現地の職員がいるところからはじめる。このことは、私たちが通常の業務と同じような気がします。時期によって、課題や役割が変わるかとは思いますが、私たち会員も一丸と



なり、支援継続し、つないでいくことが大切ではないでしょうか。社会福祉士を受けいれてくれた東松島市の包括支援センターに感謝しながら、今後も私たちに何ができるのか、何をやるべきかを、誰もが生きていて良かったと思えるように、みんなで考えていきたいと思っております。多くの人たちに笑顔が戻りますように・・・。



大槌町への活動をおえて

室蘭市地域包括支援センター母恋 千葉彩子

4月30日～5月5日の間、岩手県の大槌町へ地域包括支援センター業務の支援へ行ってきました。津波の被害により、多くの死者と行方不明者がおりました。役場の中にある、地域包括支援センターは津波で流され、職員はお亡くなりになり、データは流されました。

今回の派遣は第2班のため、具体的な情報がない中で第1陣の方々が一から環境整備、現地職員や岩手県庁をはじめとする関係機関との調整をしてくださいました。そのため、私は今回の目的である現地地域包括支援センターの支援であることを再確認するところからスタートしました。「信頼関係の構築」と目標に、どのような支援をしていくべきなのかを、その都度現地の職員と話し合いを重ねていきました。地域特性を把握されている現地の職員が主体的に動けるように、私たちがスムーズに後方支援ができるように努めました。一緒に考え、一緒に行動して、事例を積み重ねていくことで少しでも役割が発揮できるのではないかと感じました。現地職員と時間をかけて話す時間はないほど、様々な業務に追われており、食事中や休憩時間の談話の中から、工夫した関係作りを行いました。

ニーズや課題は、1日目単位で変わっていきます。自ら被災されている職員の方々が、通常業務以外の関係機関との調整や対応に追われています。ネットワーク構築には手が回らず、もう少し積極的な介入をしたい気持ちもありました。しかし、現地の職員が主体的に業務が行えることを第一に、現地の職員の負担軽減ができることが必要と考えました。長期的な支援体制で、現地の復興支援に役立てればと思いました。

■ 地区支部活動報告

● 道央地区支部

4月10日に道央地区支部総会及び社会福祉セミナーを開催しました。

社会福祉セミナーでは、はこだて若者サポートステーション専門相談員の野村俊幸氏をお招きして「子育てと教育に生かすソーシャルワーク～わが家の不登校体験を通して」として講演いただき、37名（うち非会員11名）のご参加をいただきました。また、柏会長より「北海道社会福祉士会の動向」と題して、法人移行や日本社会福祉士会の連合体移行などについてお話しいただきました。

今後の研修会などの予定ですが、ぱあとなあ道央地区支部登録者学習会6月25日、8月27日に、基礎研修を小樽市において9月3日に開催予定です。

道央の研修のうち、地域包括及びぱあとなあ研修につきましては現任者に各委員会よりご案内いたします。基礎研修については、詳細確定しましたらホームページ、次号のかわら版などでご案内いたしますのでよろしくお願いたします。

(梶野)

● オホーツク地区支部

5月7日に第1回の役員会を開催しました。今年度から役員になった方もいた為、顔合わせの場にもなっていたかと思えます。昨年度の活動報告、今年度の活動計画を約4時間に渡って話し合いを行いました。和気藹々とした雰囲気でも話し合いも進み、濃い内容でしたが良い話し合いができたかと思えます。

今後の活動計画としましては7月16日に会員に向けた学習会、7月30日に基礎研修会、8月27日・28日には釧根支部・十勝支部との合同研修会が開催予定となっています。会員学習会では多くの方に参加していただける内容を役員会で検討しています。入会しているけども、研修会には参加していない方・研修会に行くのは気が引けると感じている方にも参加しやすいものと考えていますので、ぜひ参加していただきたいと思えます。併せて、基礎研修は入会して3年以内の方が対象となっていますが、まだ参加していない方はこの機会に参加していただければと思えます

(佐々木)

● 十勝地区支部

○十勝地区支部2011年度定期総会

4月14日、帯広市グリーンプラザにおいて地区支部定期総会を開催しました。平日の夜という従来とは違う時間帯での開催にも関わらず、会員38名（委任状による出席者48名）が会場に集い、2010年度事業報告・決算報告、2011年度事業計画・予算が議案通り承認されました。

今年度は、「組織強化と会員拡大」「会員の資質向上に向けた研修体制の継続」「十勝らしさの推進」の3点を基本方針に掲げ、学習会や成年後見人フォローアップ研修を含む研修会の実施、会員拡大の取組強化、



権利擁護活動の実施、十勝社会福祉士人材マップの作成と“私は社会福祉士です”プレゼン企画の実施などといった活動を、委員会体制をとり

実施していきます。

また総会では、十勝地区支部でも東日本大震災への取組を考える必要があるとの意見が出され、北海道十勝の地にもできることを探り、実施していくことを確認しました。

(長村)

● 釧根地区支部

釧根地区支部では5月22日(日)に「社会的養護と里親制度～現状と課題～」と題し、釧路児童相談所小林浩樹主査と現在、実際に里親としてご活躍されている方2名を講師にお招きし、里親制度の現状や里親になったきっかけ、印象に残ったケースなどについてお話しして頂きました。



里親の方が共におっしゃっていたことが、「子どもたちに逆に育てられる」ということでした。それぞれ実の親のところで暮らせない子どもの抱える問題を通

して、自分たちも学ぶことができるという充実感と、両名とも長く里親として活動されている方でしたが、どの里子にも愛情を持って接している様子が感じられるお話でした。

児童相談所や学校、地域などと協力しながら、時には議論しながら里子が自立できるまで、18歳を過ぎてもフォローを続けているケースも多いそうで、かなりのご苦労があるかと思いますが、そのような苦労を感じさせない話しぶりが印象的でした。

(宮田)

● 日胆地区支部

新役員体制について

去る4月9日(土)介護老人保健施設：憩(室蘭市)において総会が行われ、役員の変更により木村支部長のもと19名の新たな役員体制で事業活動などに取り組んでいくことになりましたので、各支部のみなさん、地区支部会員のみなさん、どうぞ宜しくお願い致します。

【今後の研修について】

①成年後見・権利擁護セミナー

日時 平成23年7月16日(土) 13:30~

場所 苫小牧市民活動センター(苫小牧市)

内容 (予定)

I. 苫小牧市社会福祉協議会の権利擁護活動の取組
講師(調整中)

II. 小樽・北しりべし成年後見センターの実践
講師 北しりべし成年後見センター

所長 重藤一郎氏

②基礎研修

日時 平成23年7月16日(土) 9:30~

場所 苫小牧市民活動センター(苫小牧市)

※基礎研修についての問い合わせ先

樽前緑樹園(苫小牧市)

Tel 0144-67-3620 木村明人

(大塚)

● 道北地区支部

○ 2011年度 総会・基礎研修・春季セミナー



2011年4月16日(土)、本年度の総会及び基礎研修、春季セミナーを旭川市民文化会館にて開催しました。

春季セミナーの前段に行

った基礎研修には、今年度より社会福祉士として活躍されている方を中心に8名の方が参加し、社会福祉士の組織体制や社会福祉士としての姿勢、倫理要領等について学びました。

その後行われた春季セミナーでは「矯正施設を退所した高齢者、障がい者への支援ネットワークについて」と題して、北海道地域生活定着



支援センターの野村宏之氏にご講演いただき、43名の方の参加がありました。矯正施設を退所した高齢者や障がい者の中には、地域社会に復帰するための支援がうまく繋がらず、再び罪を犯し矯正施設に戻るケースが多く、そういった方々が地域での生活を送れるような様々なネットワークを活用した中で支援に取り組んでいる地域生活支援センターの実践とこれからの課題等について学びました。

春季セミナー終了後の総会では、来賓として北海道社会福祉士の柏会長にお越しいただき、道社会福祉士の公益法人化など今後の北海道社会福祉士の動向などについてお話しいただきました。その後議事を行い、29名の参加者と委任状、書面票決書により、2010年度の決算報告、2011年度の事業計画等にご承認をいただきました。

皆様のご協力により無事に今年度の総会を終了することができました。この場を借りまして厚く御礼申し上げます。

● 道南地区支部

5月27日(金曜日)19時00分から函館市青年センターで定例学習会を開催しました。地区支部会計に関することや事業種別などの説明を中心とした情報交換をしました。



予算と決算の在り方など会計処理に関する話で、社会福祉士の基礎知識のひとつとして勉強になりました。6月から8月までの主だったお知らせです。定例会は第3金曜日の19時00分からを予定しています。内

容は7月15日分として、北海道障がい者条例等の研修会を予定していますが、それ以外については未定です。また、「成年後見事例検討会」が函館市総合福祉センターで偶数月の水曜日に開催されます。会員の皆

様には、それぞれ時期が来ましたらご案内いたします。「成年後見の登録者と受講者」の1回目の研修も予定されています。地区支部の事務局が「ゆあさ社会福祉士事務所」に4月より移転しています。

事務局から

●2011 年度支部会費について

口座引落の場合、第1回目として、5月12日(木)に5,110円(引落手数料110円含)が引落しがありました。残高不足の場合、自動的に次回の引落は7月12日(火)です。所定の口座へご入金いただきますようご協力をお願いいたします。※処理効率化のため、口座引落手続きのご協力をお願いいたします。

●7月～8月のスケジュール

月	行事	日	会場
7月	第6回正副会長会議	15	事務局
	日本社会福祉士会 事務局員研修会	2	東京都内
	ソーシャルワーカーディ 記念講演	18	エルプラザ
	第2回理事会	23	札幌市ボランティア研修センター
	社会福祉士現場実習指導者フォローアップ研修会①	23	札幌医学技術福祉専門学校
	高齢者虐待対応現任者標準研修	29～31	かでの2・7
8月	第7回正副会長会議	上旬	事務局
	キャリアアップ支援研修	6	かでの2.7
	子ども福祉支援セミナー	27	札幌市社会福祉総合センター
	かわら版28号発行	中旬	

●ご案内

※ソーシャルワーカーディ 記念講演では、山田火砂子監督をお招きし、トークショーを予定しております。詳細は別添チラシを参考にしてください。

※キャリアアップ支援研修～ライフステージを見据えたひきこもり理解と訪問支援(アウトリーチ)の活用を学ぶ研修事業～では年々大きな社会問題となっている引きこもりについて考え、支援について学ぶ研修会となっております。詳細は別添のチラシをご覧ください。

一 会員の動向(4月31日現在) 一

- 総会員数 1,534名
(男性:800名, 女性:734名)
- 入会率 24.78%
- 新入会員数(転入含) 33名
(2011.4)
- 退会員数(転出含) 6名
(2011.4)

※入会申込書をご希望の方は当会までご連絡下さい。

社団法人 北海道社会福祉士会

〒001-0010

札幌市北区北10条西4丁目1番地SCビル2階

TEL 011-717-6886 (月～金)

FAX 011-717-6887

9:30～12:00/13:00～16:30

E mail info@hokkaido-csw.org

URL <http://www.hokkaido-csw.org/>